

水俣市環境共生型住宅モデル整備事業

〔応募者〕 氏名：水俣市長 宮本勝彬 勤務先名：水俣市産業建設部都市政策課（担当：境） 勤務先住所：熊本県水俣市陣内1丁目1番1号
 連絡先（勤務先）：TEL (0966)61-1621 FAX (0966)63-5547 Email:sakai-n@city.minamata.lg.jp

●地域性への配慮事項

水俣市は全国的にみて温暖な気候で、年間平均総雨量は2,200㎜と多く、高温多湿な地域である。水俣病という公害病を経験し、人と人、自然と人とのつながりを重視した「もやい」思想が生まれ、持続可能な社会の形成を目指している。

水俣エコハウスは都市型の閉じられた施設のような快適性をもとめていない。地域にふさわしい住宅環境性能を確保するため、家の外部と内部を遮断せずに、両者の融合性を重視した計画となっている。

夏は暑くない程度、冬は寒くない程度、これが水俣エコハウスである。

●作品の概要

事業主体：水俣市
 設計者：すまい塾古川設計室有限会社
 施工者：坂田建設株式会社
 関連事業：環境省21世紀環境共生型住宅のモデル整

備による建設促進事業

敷地面積：361.69㎡
 建築面積：96.58㎡
 延床面積：130.61㎡
 構造等：木造2階1戸建て
 用途：モデル住宅

●作品の特色 水俣エコハウス～足るを知る普通の家～

建築材料の生産時から建物の建築時まで、地下エネルギーを極力使用しない。生活するときは杉板、土壁、和紙、三和土などで湿度を調整し、夏は深い庇と風通しでエアコンなしですごすことができ、冬は山で余っている間伐材などを薪として暖をとる。

水俣は杉、檜などの木材産地であり、昔からある伝統構法で建築ができる大工職人、左官職人、建具職人がたくさん存在している。地元の木や土や紙を使い、地元の職人が伝統構法による木造住宅を建築することで、地元

の未来につながると考える。

自然にたいして「何も足さない何も引かない」の精神を基本として必要以上の性能を追求しない。水俣の取り組みは少しの不自由さを楽しみにかえて、次世代もかわることなく自然と人が共存しながら、つながりを大事にした自立型循環社会の生活ができる住宅を目指した新たなチャレンジである。

【足るを知る普通の家 3つのポイント】

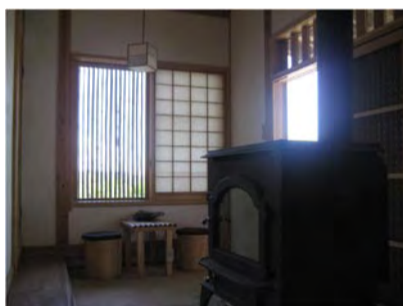
- (1) 地域性
 地元の建築材料で、地元の職人で、地元の人々にあう家づくりと生活スタイル
- (2) 環境性
 自然にたいして何も足さない、何も引かない、CO2のすくない家づくり
- (3) 住まい方
 夏は暑くない程度、冬は寒くない程度、昔の知恵から学ぶ日本の家のくらし



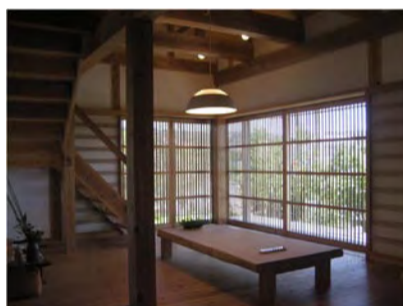
① 夏のエコハウス 西外観
 南側へ深く出た庇とグリーンカーテンで真夏の強い日差しも遮蔽。不快な梅雨時期でも窓を開けられる。



② 冬のエコハウス 南外観
 この地域では非常に珍しい大雪が降る。こんな日でも薪ストーブで家のなかは快適。



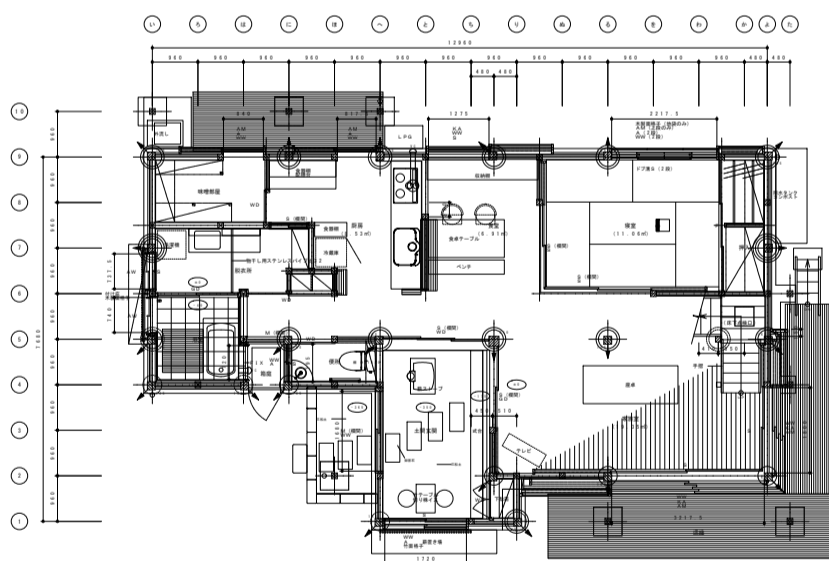
③ 接客のできる土間玄関
 三和土（たたき）に水をまくことにより、夏は気温を下げ涼感を得、冬は加湿効果により暖かく感じる。



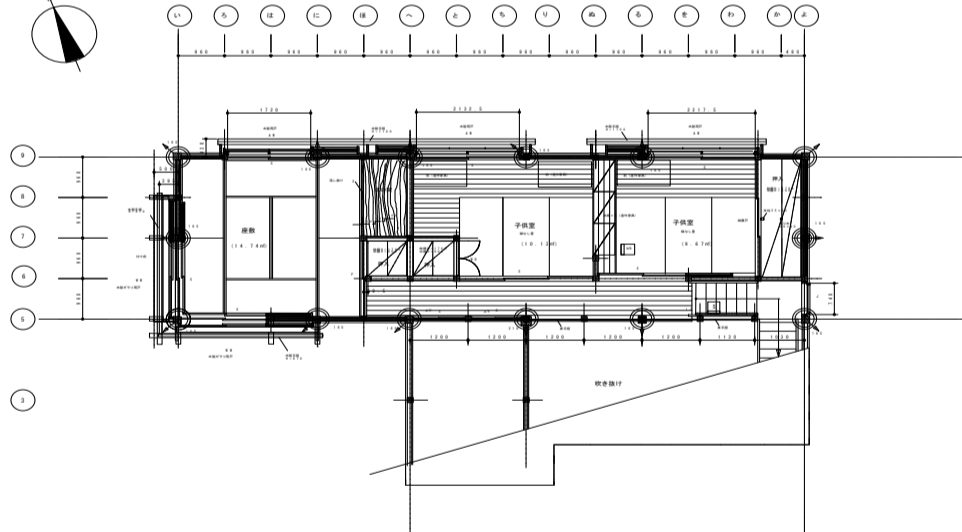
④ 1階 快適な家族室
 南側の大開口部から北側開口部へ向けて爽やかな風が流れる。格子戸であるため防犯上も大丈夫。



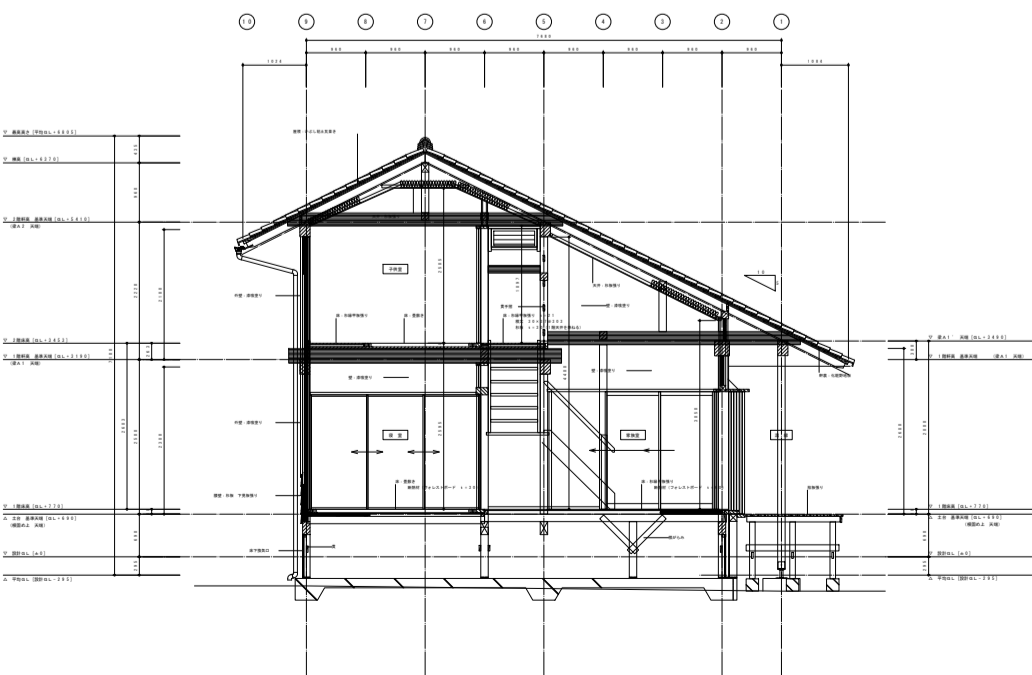
⑤ 2階 安心安全子供室
 木・土・紙、室内に使用している自然素材により良質な室内空気環境を得られ、子育ても安心。



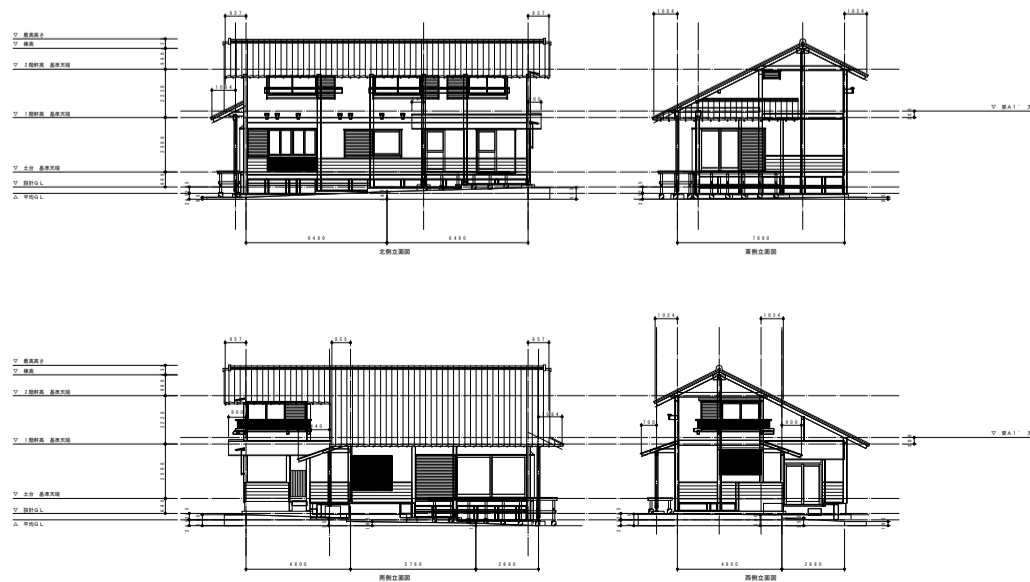
1階平面図



2階平面図



断面詳細図



立面図